



CHATERED IN
NOVEMBER 21, 1955

THE SERVICE CLUB OF YMCA
THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

2022年3月

札幌クラブ

c/o YMCA
MINAMI 11 NISHI 11
CUO-KU SAPPORO
〒064-0811
011(561)5217

TOF (Time of Fast) · Heal the World

— 主題 —

国際会長 「世界とともにワイズメン」
 アジア会長 「100年を越えて変革しよう」
 東日本区理事 「私たちは次の世代のために何が出来るか？」
 北海道部部长 「心を高めようパート2 ワイズダムの繋りを友情の輪に」
 札幌クラブ会 「踏み出そう 次の一歩」

キム・サンチエ (韓国)
 大野 勉 (神戸ポート)
 大久保 知宏 (宇都宮)
 中村 義春 (十勝)
 柴田 伸俊 (札幌)

札幌クラブ役員
 会長 柴田 伸俊
 副会長 伏木 康
 書記 伏木 康
 会計 秋葉 聡志
 直前会長 宮崎 善昭

今月の言葉

そこで、イエスは言われた。『剣をさやに納めなさい。剣をとるものは皆、
 剣で滅びる。』 マタイによる福音書 26章 52節 (秋葉聡志選)

『今なぜウクライナが・・・』 札幌クラブ会長 柴田 伸俊



今月の巻頭言に近所の子供たちの事を書こうと準備していたところに、2月24日のロシア軍のウクライナ進行のニュースが飛び込んできた。さすがにこの一大事は見過ごすことができないので、子供たちの件は次回に廻し、今回はこの事について自分の心境を少し書いてみました。

ニュースが出た時は内容が暫らく理解できず、「本当にやるんだ」「脅しでなかったんだ」との思いが駆け巡り、しばらくして「オリンピックが終わってパラリンピックが始まるこの間？」意図的にも思え、勢いで走ったとも感じ、どこかに誰かの誤算が生じているようにも思え、戦争とはこんなに簡単に始まってしまうんだ。映画やドラマと勘違いしそうに見ている自分がそこにいました。人間は第二次世界大戦の苦い思いの中、戦争抑止力として知恵を絞り国連を作り戦争をできるだけ回避してきた。EU、アメリカ、NATO 同盟がそれぞれの思惑は有るにせよ、手を尽くして対策してきた。なのにいざ始まってしまうと、何とももろく右往左往するんだ、全てのバランスが崩れ始めコントロールできなくなるんだ、という現実を見せられています。歯止めを掛けられないもろさ。

さあこんな時日本はどうするんだ。

今の私たちに何ができる。今のワイズに何ができる。

今日、東日本区大久保理事からメールが入りました。ワイズメンズクラブ国際協会の声明文です。「ヒールザワールド」(世界を癒そう)の「ウクライナアピール」への寄付を通じて、さらなる貢献を行うことを訴えています。

ワイズコム読者の皆さん

東日本区理事の大久保です。

2月24日早朝(現地時間)に起きたロシア軍によるウクライナ侵攻はウクライナの人々の生命・生活に大きな影響を与えています。私たちワイズメンズクラブは、国際協会、日本YMCA同盟、世界YMCA同盟と連携してウクライナの皆さんに対する支援活動を始めます。

既に国際協会では、「ヒールザワールド -ウクライナ・アピール-」としてヨーロッパYMCA同盟に対して1万ドルの初期寄付を行うことを決定いたしました。

東日本区では、100万円を目標金額として、各クラブ、会員の皆さまからの寄付を募集いたします。寄付の募集締め切りは3月31日といたします。

下記口座に「ウクライナ」と記載の上、送金をお願いいたします。 ゆうちょ銀行からの振り込み>

ゆうちょ銀行 口座記号番号:00110-0-362981

他の金融機関からの振り込み>

ゆうちょ銀行 019支店(当座)0362981

口座名義は「ワイズメンズクラブ国際協会東日本区」

2022年2月例会
出席報告

在籍会員 9名 例会出席 7名
 ゲスト 1名(卓話者) ビジター 11名

メネット 0名 メーキアツプ 1名
 出席者合計 19名(内リモート9名) 出席率 89%

札幌ワイズメンズクラブ 2020年3月例会

日時：2022年3月15日（火）18:30～20:30
会場：北海道 YMCA 101 教室
会費：1,000円

プログラム

- | | | | |
|-----------------|----|-----|------|
| | 司会 | 副会長 | 伏木 康 |
| ① 開会点鐘 | | 会長 | 柴田伸俊 |
| ② ワイズソング、ワイズの信条 | | | 全員 |
| ③ 今月の言葉、なぜこの言葉 | | | 宮崎善昭 |
| ④ 開会あいさつ | | 会長 | 柴田伸俊 |
| ⑤ 誕生日 | なし | | |
| ⑥ 結婚記念日 | なし | | |
| ⑦ 卓話 | | | |

「オーケストラの裏側」

ステージマネージャー
海藤正吾様



- ⑧ 諸報告
⑨ YMCA報告
⑩ 今月の歌

「花は咲く」



閉会挨拶・点鐘 会長 柴田 伸俊

札幌ワイズメンズクラブ 2月例会記録

日時：2022年2月15日（火）18:30～20:00
出席者：宮崎、伏木、中田、柴田、安田、北川
コロナオミクロンの蔓延防止期間中ということもあり、2月例会は急遽リモートでの開催と致しました。参加会員からはそれぞれの近況や最近感じた事などのコメントを頂きました。（柴田記）

卓話者 海藤正吾様 プロフィール

元札幌交響楽団（札幌）のステージマネージャー。札幌交響楽団創設2年後の1963年から、ステージマネージャーとして、2000年に定年を迎えるまで37年間勤めた。アマチュア楽団員も多数いた創成期から様々な業務に携わり、札幌の演奏会を支えてきた。スタッフ、楽員からも人望は厚く、札幌が全国区になるまで成長に寄り添った。今もステージマネージャーとして数多くの演奏会で活躍し、アマチュアオーケストラ13団体の活動も支えている。

札幌ワイズメンズクラブ 2月事務会記録

日時：2022年2月22日（火）19:00～19:40 (meet)
出席：柴田（長）・秋葉・中田・伏木

- 3月プリテン分担：
 - 原稿締め切り：3月7日（月）
 - 発行予定：3月8日（火）
 - ※2月会員卓話要旨を各自提出。欠席の秋葉・山崎メンも100～200字で近況報告提出。
- 3月例会・事務会について
 - 例会** 日時：3月15日（火）18:30～20:00
対面形式で予定。
会費：1,000円 持ち帰り弁当用意。
卓話：海藤正吾氏（ステージマネージャー）
※コロナ感染症拡大によりオンライン開催に変更の場合は、海藤さんオンライン対応不可の為、4月卓話予定の小野会員と交代する。
 - 事務会** 日時：3月22日（火）19:00～20:00 (meet)・4月例会内容について
- 札幌クラブ次期役員について
伏木次期会長より、3月5日開催予定の東日本区次期役員研修会を受けてから検討とのこと。
- 北海道部関連
 - ①次期役員研修会について
ホストクラブ：札幌北クラブ
日程：4月29日（祝）午後 北海道YMCAにて予定 詳細は後日配信予定
- その他
 - ①4月例会卓話について
小野メンにブルキナファソで何が起きているのか、卓話にてレポートしてもらう。
柴田会長より依頼・確認する。
 - ②山崎メンのメールアドレスを会社の連絡メールから以下に変更要請あり。
info@e-ishi.jp 右記へ変更 osamu@e-ishi.jp

何故この言葉を！ 秋葉 聡志

ロシアがウクライナに侵攻し、原発を攻撃するという考えられないことが起こりました。一刻も早く平和が戻るよう、一人一人ができることに努力したいと思います。また、剣をとる者が減るかどうか、注視したいと思います。

2月例会卓話

「2022年2月の思い！」

札幌クラブ会員

ピンクシャツデーに思う 伏木 康



例会では冬季五輪の話をしましたが、終盤にピンクの T-shirt を着用しました。今年は中村北海道部長の提案で、北海道 YMCA が展開するピンクシャツデーの支援に5万円を支出しています。

2021年2月に旭川で女子中学生いじめ凍死事件がありました。ウップツ川飛び込み事件等の前兆があったのに守れませんでした。ピンクシャツデーは2007年にカナダの中学生から始まったいじめ反対運動です。私は中学生を中心とする世代を重点的に取り組んだほうがいい気がします。

いじめは総論反対でも傍観者になってしまいがちです。傍観者でなく、行動できる人を増やすために、ピンクシャツデーの推進者は自発的に手を挙げてもらい、毎回違う方が担当することが大切だと思います。

娘の結婚式とクリオネ 柴田伸俊



今年1月に長女の結婚式を札幌で無事挙げる事ができました。コロナ禍で去年から2度の延期を経ての披露宴の為、終わってホットしているところです。私たちも式の翌日には抗体検査を受けに行ったり、本州からの参加者もいましたので、式が終わってからも一週

誰かから熱が出たとの知らせが来ないかとハラハラの今月でした。何事もなく今日を迎えていますのでもう大丈夫と思います。娘の嫁ぎ先が枝幸(オホーツク)の漁師なので、先方のご両親より「流氷の天使クリオネ」を10匹ほど送っていただきました。とてもかわいらしくて癒されていますが、室温では飼えないので玄関先に置いたり、弱ってくると冷蔵庫に入れて回復させたり、エサはやらず定期的な海水の交換で何とか元気に泳いでいますが、何時まで私たちに付き合ってくれるのでしょうか。



写真左：
流氷の天使
「クリオネ」

編集部注：
「枝幸」は
「エサシ」と
読みます。

スポーツ実施率の向上に向けて 北川 佳治



スポーツは、その環境や実施方法等で良くも悪くも作用します。ですが、生涯スポーツの観点で、無理なく適度に行えると、また、それを共にする仲間が居ると、より一層健康寿命に寄与することが、様々な研究で証明されています。

ただ、スポーツ庁の報告によると、日本における成人が週1回以上スポーツを実施している割合は、56%という結果になっており、そもそも論的どころが現実です。また、障がい者のその数値となると、ぐんと下がり31%となっています。これが週2回、3回のスポーツ実施率の割合になるとどちらも更に下がってきます。YMCA ウェルネスセンターでは、すべての方々にスポーツを行う習慣を持ってもらい、QOLに繋げてほしいと願い、様々な働きを継続していきます。

Return to ブルキナファソ 小野 健



ブルキナファソで農業と栄養改善のプロジェクトで出張中でしたが、1月24日に軍事クーデターが発生したために予定を切り上げて1月末に帰国しました。同国の状況は落ち着いており、今春に戻れることを期待して準備中です。2月から3月初めまでアフリカ5か国を対象とした村落飲料

水管理についてのオンライン研修を行っているところです。

編集部注：
ブルキナファソをご存じない方へ。
右のアフリカの地図の赤い部分がブルキナファソです。



「もも」はいずこへ！ 秋葉 聡志



13年間生活を共にした愛犬チワワの「もも」が亡くなってから1ヶ月。今のマンションに移る際も優先したのはペット可の条件。「もも」のいた場所は、今は空いた空間しかありません。その空間を見ると、嗚呼いないのかと改めて寂しくなります。どこにいったのかなあ。

YMCA ニュース 担当主事 北川 佳治

★ピンクシャツデー報告

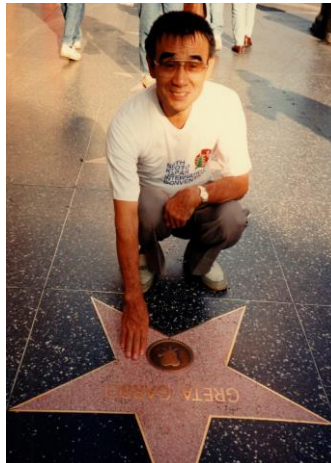
今年も多くの方々がピンクシャツデーの趣旨にご賛同され、素敵な投稿をいただきました。担当者もワークショップを開催したり、館内掲示板や SNS 投稿で発信したりと、ただ単に、「いじめをなくす」というものから、自分の気持ちや相手の気持ちを見つめ、平和や公正などを求めるきっかけの和が広がってきているように感じられました。世界各国で行われているこの働きを、これからも日本最北の地から継続して発信していきます。



写真上、左: 世界の、日本の YMCA での[ピンクシャツデー]
写真下: 北見YMCAの活動が北海道新聞に大きく取り上げられました。

p.3の「会員卓話」より続く

「権利」と「義務」どちらが先？ 中田 靖泰



欧米各地でワクチン義務化に反対するデモが行われています。それを見て50数年前、家族で住んでいたイギリスを思い出しました。個人の権利と責任が何よりも重視されている社会でした。一番驚いたのは、ロンドンのバスが停留所でもなく、at your own risk (各自の責任で)で、降りることが出来るということでした。自動車の乗車定員というものもありませんでした。危険かどうかは、個人が自分の責任で判断することで規則で縛ることはない、という考えのようでした。「ワイズの信条」の4番目「義務を果たしてこそ、権利が生ずることを悟ろう」という一節があります。これが悪いと言うのではなく、当たり前すぎるということです。「義務」を「権利」の前に置かなければならないのはやはり「西歐的」なのでしょうか。ワイズは国際的、多文化的団体です。批判せず理解し合わなければいけないと思いました。

上の写真はロサンゼルスでチャイニーズ・シアターの前でグレタ・ガルボ（ご存知の方はいないでしょうね）のプラークの前の55年目の筆者です。

ワイズの信条

1. 自分を愛するように、隣人を愛そう。
2. 青少年のためにYMCAに尽くそう。
3. 世界的視野をもって、国際親善をはかろう。
4. 義務を果たしてこそ、
権利が生ずることを悟ろう。
5. 会合には出席第一、
社会には奉仕第一を旨としよう。

**「いじめ反対」子どもたちに
北見YMCAが啓発活動**



ピンクのシャツを着て子どもたちに話を
する小林さん

いじめに反対の意思を示す運動「ピンクシャツデー」(2月の最終水曜)に合わせ、北見YMCAは2月を「ピンクシャツ月間」と位置づけ、メッセージを掲示するなどいじめ防止を訴える活動に取り組んでいる。運動は2007年、ピンク色のシャツを理由にいじめられたカナダの中学生を守るため周囲も同じ色の服を着たことにちなみ、始まった。北見YMCAは15年から運動を推進している。今年には子どもたちから募った「自分がされて嫌なことをしない」などのメッセージを市朝日町の事務所玄関に掲示し、ピンクのミサンガ作りも行っている。24日にはYMCAに通う子どもたちにスタッフの小林武史さん(42)が「いじめを見たら、頼れる仲間と一緒に「だめだよ」と言ってみてほしい」と訴えた。高栄小5年の岸本美咲さんは「いじめが減り、みんなの笑顔が広がる社会になってほしい」と感想を話した。(古市優也)